

形容詞的受動文の意味分析

清水野 貴大

1. 導入: 形容詞的受動文の基本的性質

形容詞的受動文(=1b)は、出来事を表す動詞的受動文(=1a)とは異なり、形容詞と同様に状態を表す。

- (1) The door was opened.
a. Eventive passive
Someone opened the door.
b. Adjectival passive
The door was in a state of having become open. (Embick (2004: 356), slightly modified)

さらに、形容詞的受動分詞は形容詞を選択する動詞によって選択され得る。

- (2) a. He seems happy.
b. The door seems broken.

しかし、(3)が示すように、形容詞とは異なり、形容詞的受動分詞は、それが表す状態の原因となる出来事の修飾が可能である。

- (3) a. The package remained carefully opened.
b. *The package remained carefully open. (Embick (2004: 357))

一方で、(4)が示すように、すべての修飾句が原因となる出来事を修飾できるわけではない。

- (4) a. Some words are underlined with a {highlighter/blue pen/*short pen}.
b. This text is written by a {moron/non-native speaker/*tall person}. (Mcintyre (2015: 942))

Mcintyre (2015)は、許容される修飾句は、形容詞的受動分詞が表す状態、またはその状態の保持者の記述に寄与するものに限ると一般化をしている。

- (5) **State Relevance Hypothesis:**
Event-related satellites are unacceptable in (German, English, Hebrew) adjectival passives unless they contribute to the description of the state expressed by the participle or of the theme during the interval *i* during which this state holds. They are most acceptable if they provide information which can be inferred solely by inspection of the theme during interval *i*. (Mcintyre (2015: 941))

この一般化によると、(4a)の道具項である *a blue pen* や *a highlighter* は下線の色に寄与するため適格だが、ペンの長さは下線の状態に寄与しないため、*short pen* は不適格となる。様態副詞に関しても、メモが素早く書かれた場合は乱雑さなどが筆跡に現れるが、ゆっくり書いた場合は筆跡にその特徴が現れることはないため、*hastily* は適格だが、*slowly* は非適格となる。

- (6) The note I found seems {hastily/*slowly} written (*yesterday). (Mcintyre (2015: 940))

本稿は、形容詞的受動文の意味および形容詞的受動分詞に修飾句に対する制限を Ramchand (2018)が進行形の意味として提案する全体事象を同定する状態事象である Identifying state (ID-state)の観点から説明する。

2. 先行研究

Ramchand(2008, 2018)は動詞句が時空間的性質を持たず因果関係のみを表し、init (iation)-proc(ess)-res(ult)の原因、過程、結果を表す三つの主要部に分解され、最大で(7)の構造を持つと提案している。

- (7) $[\text{initP initiator } [\text{init init } [\text{procP undergoer } [\text{proc proc } [\text{resP resultee } [\text{res res XP}]]]]]]]$

Ramchand (2018) は原形が(8)の意味表示と対応する initP の構造を持ち、形容詞的受動分詞は res のみを構造にもち(9)の意味表示を持つと提案している。

- (8) $[[\text{destroy}]] = \lambda e \lambda s_1 \lambda e_2 \lambda s_3 [e = s_1 \rightarrow [e_2 \rightarrow s_3 \& \text{destroy}_{\text{init}}(s_1) \& \text{destroy}_{\text{proc}}(e_2) \& \text{destroy}_{\text{res}}(s_3)]]$
(9) $[[\text{destroyed}]] = \lambda s [\text{destroy}_{\text{res}}(s)]$ (Ramchand (2018: 78))

(9)は形容詞的受動分詞の修飾句は res を修飾すると予測する。そして、(11)が示すように結果状態を修飾する修飾句は適格である一方、(10)の適格性が落ちるのは *recently/carelessly* が修飾するための init や proc の投射がないことによるためであると説明することができる。

- (10) ?The door is recently/carelessly closed. (Ramchand (2018: 73))
(11) a. Her hair is still sloppily combed.
b. She is still well dressed. (Ramchand (2018: 82))

一方で、(9)は(4)が示す動作主や道具項による initP の修飾が一律に非適格であると予測するという問題がある。

この問題点を解決するため、本稿では形容詞的受動分詞が *res* だけでなく *init* や *proc* を含む意味表示を持つことを次節で提案する。

3. 提案

本稿では Ramchand(2008, 2018) による(7)の動詞句構造に加えて、Ramchand (2018)が進行形の *V-ing* の意味として提案する Identifying-state (ID-state)を仮定する。

(12) Identifying State: Definition

For every event description P, an Identifying State for P is a stative eventuality that manifests sufficient cognitive/perceptual identifiers of the event property P. (Ramchand (2018: 58))

Ramchand (2018: 58)によると、ID-state とは、ある事象の属性を推定するのに必要な証拠を提供し、知覚的・認知的判断により、その事象の一部として同定され得る状態である。本稿は ID-state は進行形に特有の意味ではなく、部分的状態事象に対する一般的制約であることを提案する。すなわち、進行形は全体事象の *init* または *proc* の部分を表す部分的状態事象であるため、ID-state を表し、形容詞的受動分詞は全体事象の *res* の部分を表すため、その状態も ID-state を表すと提案する。

まず、統語構造に関しては、Bruening(2013)に従い、PassP は Passive 形態素が外項を伴わない動詞句を補部に取りることにより派生すると仮定する。そして、(13)で示されるように、形容詞的受動分詞化接辞 *-ed_{adj}* が PassP を補部に取り、形容詞的受動分詞 *-en/ed_{AdjP}* を形成し、*-en/ed_{AdjP}* は、PassP が表す全体事象の部分である *res* 事象に対応する部分を ID-state として表すことを提案する。

(13) V-*ed_{adj}*

- a. [-en/ed_{AdjP} -en/ed_{Adj} [_{PassP} Pass *initP*]]
 b. [[-en/ed_{AdjP}] = λs . [*res*(s, [[VP]]) \wedge ID-state(s, [[VP]])]
 = λs . [s corresponds to *res* in [[VP]]) \wedge ID-state (s, [[VP]])]

4. 分析

本節は、(13)により、McIntyre (2015) の一般化である State Relevance Hypothesis が、形容詞的受動分詞が状態的部分事象を表すこと、それゆえに ID-state を表すことに基づいて説明されることを示す。例えば、(14)は(15a)の統語構造と(15b)の意味表示をもち、*res* に相当する部分的状態事象を ID-state として表す。

(14) Some words are underlined with a {highlighter/blue pen/*short pen}. (McIntyre (2015: 942))

- (15) a. [-en/ed_{AdjP} en/ed_{adj} [_{PassP} Pass [_{initP} with a {highlighter/blue pen/*short pen} [_{initP} underline_{init} [_{procP} Some words [_{proc'} underline_{proc} [_{resP} Some words [_{res'} underline_{res} XP]]]]]]]]]]]
 b. [[-en/ed_{AdjP}]
 = λs . [*res*(s, [[[_{initP} with a {highlighter/blue pen/*short pen} [_{initP} underline_{init} [_{procP} Some words [_{proc'} underline_{proc} [_{resP} Some words [_{res'} underline_{res} XP]]]]]]]]]]] \wedge ID-state(s, [[[_{initP} with a {highlighter/blue pen/*short pen} [_{initP} underline_{init} [_{procP} Some words [_{proc'} underline_{proc} [_{resP} Some words [_{res'} underline_{res} XP]]]]]]]]]])]]]

(15b)は、そこから[[*initP*]]が表す事象を推定できるような結果状態を表す。[[*initP*]]が“Some words be underlined with a short pen.”の場合、結果状態は下線を引くのに用いられたのが短いペンであることを示す証拠となる状態である。しかし、引かれた下線から用いられたペンの長さを推定することは出来ないため、with a short pen.による修飾は不適格となる。一方で、[[*initP*]]が with a highlighter/blue pen.による修飾を伴う場合、結果状態である引かれた下線の色が用いられたペンに対する証拠となるため適格となる。また、(6)の様態副詞も同様に説明することができる。

5. 結論

本稿では、ID-state を部分的状態事象に課される制約と位置づけることで、形容詞的受動分詞において許容される修飾句が説明できることを示した。

参考文献 Bruening, Benjamin (2013) “By Phrases in Passives and Nominals,” *Syntax* 16, 1-41./ Embick, David (2004) “On the structure of resultative participles in English,” *Linguistic Inquiry* 35, 355-392./ McIntyre, Andrew (2015) “Event modifiers in (German) adjectival participles: Remarks on Gehrke,” *Natural Language & Linguistic Theory*, 33, 939-953./ Ramchand, Gillian (2008) *Verb Meaning and the Lexicon*, Cambridge University Press, Cambridge. / Ramchand, Gillian (2018) *Situations and Syntactic Structures: Rethinking Auxiliaries and Order in English*, MIT Press, Cambridge, MA.